# 2011年春　昆明交流とモーソ人の旅

## 2011年3月25日~4月2日(9日間)

　ヌチャ＜你好＞　拉姆＜ラム＞さんの
案内で雲南濾沽湖モーソ族の旅が始まった。

【昆明１日目】

　東日本大震災であわただしい中２０１１年春の昆明交流に出かけた。電車が時刻どおりかどうか心配があり、全員バスで羽田まで行くこととした。また、時間も心配で通常より１時間早く出発する。

　藤沢発９：００　鈴木恒夫副会長と小松副会長の見送りを受ける。

予定通りの時間で羽田到着。全日本中国旅行㈱の佐々木さんが来られている。早速搭乗手続き。時間がいっぱいあるので佐々木さんもごいっしょに羽田で昼食。

濾沽湖と格姆女神山

　13：50 予定通り羽田出発。

16：50 北京到着。乗り継ぎ手続き。

大地震の影響か航空便がキャンセルで北京で４時間ばかり時間がある。空港でゆっくりと夕食をとる。

　中国最初の食事が韓国料理。

羽田で出発前　右端　佐々木さん

北京空港で韓国料理。

　２１:１５　北京出発。昆明着０：50　なかなか荷物が出てこない。伍金貴さんの出迎えを受け茶花賓館到着は午前３：00 になってしまった。手続きして部屋に入ったのは３：30。.疲れた!

【昆明２日目】

　今日は第３回日本語スピーチコンテストがある。３時間ばかり寝て飛び起き朝食。

９：00 大縫さんと雲南師範大学へ向う。予想より早く着いた。大学の真向かいに前回来たときに寄った画材店を発見。絵筆を購入する。

１０：００　日本語スピーチコンテストの審査員会議。

１１：３０　雲南師範大学食堂で昼食。

１４：００　第３回日本語スピーチコンテストの開始

　最初に彩雲基金を代表して鈴木恒夫代表の代理で挨拶に立つ。東日本大震災の日本の情況を話し、会場に集まった４００名の皆さんと一分間の黙祷。

続いて鈴木恒夫代表の開会挨拶を代読。

審査員会議

昆明からの挨拶が続き、皆日本の大震災のお見舞いとこのような大変な中で昆明訪問いただいたことへの感謝が述べられた。審査会議の合間に雲南師範大学の学生により日本を励ます歌が歌われた。

**優勝　　李氷燕（女）　雲南師範大学三年　　ユーモアスピーチ賞　暢芯（女）　雲南民族大学二年**
**準優勝　　童心舟（女）　雲南大学三年　　スピーチ内容賞　譚笑（女）　雲南師範大学二年**
**カシオ賞　　呉玲　（女）　雲南師範大学三年　発音･イントネーション賞　王鵬（男）　雲南大学四年**
**雲南日本商工会賞　劉雪舲（女）　雲南大学滇池学院　三年生**

スピーチコンテスト開始

審査員

優勝の李氷燕さん

準優勝の童心舟さん

審査の時間に日本への励ましの歌

表彰式でアシスタントの大学生

表彰式で優勝の李氷燕さん

雲南師範大学のご招待宴会

優勝の李氷燕さんと準優勝の童心舟さん

【昆明３日目】
　今回の訪問ではもう一つ大きな目的があった。今年は藤沢市と昆明市の友好都市締結 30 周年である。
10：00 胡暁幸さんが茶花賓館へ迎えに来られる。大縫さん、三田さんと４人で会場の調査。
最初に雲南省図書館へ行く。碧水湖のほとりで新しい立派な図書館である。昆明市博物館より展示会場は狭い。しかし、イベントホールと一体で統一しての日中交流が出来そうである。
　画材店の打合せも終え胡さんの奥様とも合流して夕食会。おいしいごちそうとたっぷりのお酒で楽しい昆明の一日でした。

雲南省図書館

第一展示室

イベントホール

第二展示室

【昆明４日目】
　前日の調査を踏まえて昆明市外事弁公室と打合せを行なう。すでに藤沢市よりお願いしていた関係もあり友好的に話が進んだ。
いずれもこれから各自持ち帰って批准があるが何とかなりそうである。
　大切な交渉が終わりやれやれと思ったところまたも難題が発生。全日本中国旅行㈱の佐々木さんから帰りの北京ー羽田のフライトがキャンセルの電話。
北京で一泊必要となった。ホテルの手配、送迎の車の手配とお願いする。

画材店打合せ

外弁との打合せ

胡さんご夫妻の招待で夕食会

【昆明から濾沽湖モーソ族の旅へ５日目】

６：30　茶花賓館に荷物を預けお弁当を受け取って迎えの伍さんと昆明空港へ。ちょっと早く出発でラッシュを避けられた。空港でコーヒーを頼んで朝食。予定通り８：30 昆明出発。

５０分位で麗江空港到着。手荷物だけですぐに出る。麗江空港にモーソ人ガイドの拉姆＜ラム＞さんが出迎え。昨日濾沽湖からやってきて待っていたそうだ。マイクロバスの運転手は納西族の何さん。一番ベテランの運転手さんをお願いしたと伍さんの話。

モーソ人ガイドの
根茸拉姆＜ラム＞さん

モーソ人のふるさと濾沽湖までは２７０㌔ある。さっそく出発する。ラムさんの兄弟姉妹は女４人、男２人の６人。家族はみんなで２７名の大家族。モーソ人は３万人で一般的に３０人から４０人の大家族が一緒に暮らしている。ラムさんの家族で一番偉いのは６０数才の祖母。お父さんは家には不在で通い婚。結婚式はしない。女性の権力が絶大。ラムさんもそのうちおばあさんを継ぎたいそうだ。そんな雰囲気はある。小さいときから選ばれて濾沽湖を出て麗江で観光ガイドの勉強をした。一緒に出てきた友達は落伍したらしい。

若者たちは焚き火を囲んでチベットの踊りで交流する。マタミと言って手のひらを指で突付くのが求愛の意思表示。ＯＫだと女性は男性の手の甲をさする。男性は三種の神器とも通じるお花とナイフ（カギを開けるため)、銀の腕輪を用意して女性の家の壁を乗り越えて会いに行く。女性は腰紐を男性に贈る。女性が左の腕に銀の腕輪をしていると決まった人が居るという印。ラムさんは４個位している。右手には祖母からいただいた腕輪をする。

ラムさんからモーソ人のあいさつ言葉を教えてもらった。

**ヌチャ〔你好〕　アミセ〔谢谢〕　ホックァツゥオ〔再见〕　イロウ〔好吃〕　マタミ〔我爱你〕**

そうこうしているうちにどんどんと標高が高くなっていく。2，540mの山を越えていくと金砂江が見えてきた。12:00　金砂江を渡る。続いてまたまた山を登る。石灰岩の美しい岩山が聳え立つ。13：40 についに 3000m を超えた。しばらくは校倉作りの彝族の村が続く。家々には虎の顔と火の模様を描いた壁がある。火と虎は彝族の信仰の象徴らしい。

金砂江

14：40　彝族の自治県の拧浪県に着いた。ようやく昼食。急いで食事を済ませすぐさま出発。小さな紫色のつつじが咲く山道を過ぎて、のどかな山村が続く。山梨の白い花、菜の花畑、そら豆、ニンニクの畑、早春の村里風景。濾沽湖入り口を過ぎて山道はますます険しくなってきた。天候も悪くなり寒い。神保さんが寒くて頭も痛いと元気がない。伍さんは高山病の疑いありと薬を飲ませる。2800mを通過。道路も工事中で厳しくなってくる。谷あいの道をどんどん登る。17：50　ついに 3100m。すでに雲海の上にいる。山の上は雪になった。最高地の 3340mの峠は一面の雪景色。そんなところ伍さんが運命の場所を指差した。2000 年 12 月 24 日にここから谷底に車で転落した現場だという。５人のうち２人が帰らぬ人となった。その日は寒い夜で道路が凍結していたらしい。伍さんは途中で車から脱出して怪我で済んだ。現在は工事中。ことし６月には工事も完了するらしい。まもなく濾沽湖も見えてきて 18：40 ホテルに到着した。

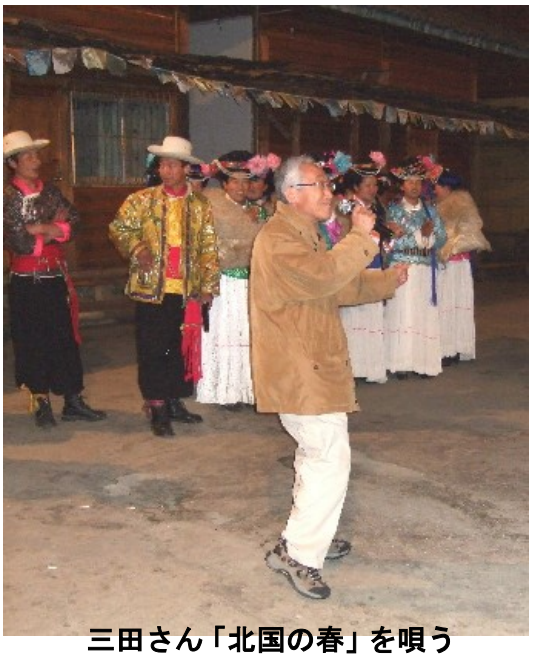
校倉作りの彝族の村

峠の雪景色

外弁の車の転落現場

19：00 夕食。20：00 出発でモーソ人との焚き火交流会に参加する。焚き火を囲んでみんなで踊り唄って交流する。手を摩る機会はなかった。
三田さんが「北国の春」を唄う。
お土産を買って 21：30 ホテルに戻る。神保さんの体調が良くない。心配である。

焚き火交流


三田さん「北国の春」を唄う

大縫さんとラムさん踊る

【昆明から濾沽湖モーソ族の旅へ６日目】
　7：00 モーニングコール　7：30 朝食　8：00 ホテル出発。神保さんは昨夜持参の梅酒を飲んで寝たら元気になったと安心する。伍さんは高山病にはお酒は禁物と言ったが神保さんには通じないようだ。朝食のおかゆに持参の梅ごのみを入れてますます元気になった。神保さんにはいつもの梅が一番の薬のようだ。
　今日はまず濾沽湖の中にあるラマ教寺院へ船で渡る。エンジン付の船は濾沽湖を汚すので手漕ぎの船がたくさんつながれている。
濾沽湖湖畔で記念写真。今日は良い天気になりそう。２０分位で島に到着。
濾沽湖は海抜 2700m あり島を登るにも息が切れる。寺院におまいりしまた船で戻る。
舟をこぐモーソ人の男性が歌を唄ってくれる。
私たちはソーラン節で手漕ぎの調子を取る。

濾沽湖湖畔で記念写真

花が満開のラマ教寺院

濾沽湖を船で里努比島へ

１０：１５湖畔に戻りモーソ人の家庭訪問。
７００本の木を使った校倉作りの母屋に案内される。
中央にカマドの神様が祭られている。ここは祖母の寝室であり、家族全員が集る所でもある。
火は年中絶やさない。先祖様に毎日食べ物を供える。
母系家族のしきたりは厳格で座るところも決まっている。中央左側に女性が座る。一番上に祖母が座る。
右側が男性で最年長のおじさんが上に座る。
左右には大きな２本の柱があり左が女柱、右が男柱。
２本の柱は一本の大きな木を二つに切って太い方を男柱に使う。
　みんな１３歳になると成人式をする。女性は頭に髪飾りをつける。これはお母さんから贈られる。
花は沢山ついているのは未婚の印である。結婚すると（通い婚を受け入れると）花は１つになる。
そしてお祖母さんから男の子と付き合う注意を教わる。
一番の問題は血縁関係である。
男はおじさんから帽子を贈られる。そして家族の歴史を勉強する。
　１９歳～２０歳になると遠い人との通い婚（足入れ）ができる。女性は通い婚をするとお母さんから帯をもらい、髪飾りの花を１つにする。男性は赤い帯をする。
　亡くなった人の弔いもここで行なう。山から薬草を取ってきて煎じて梱包する。白い布で覆うのは生まれた状態にすることを意味する。３日間お経をあげて薪を重ねて火葬する。モーソ人のルーツはヒマラヤのチャン族で以前はその風習にそって鳥葬としていたが現在は火葬になった。政府からは３日間のお経もやめるように指示があったが拒否したという。
火葬も男女で差があり男性は薪を１７段作る。女性は２段多い１９段にする。骨は一部は木の根元に埋める。
また一部は山の岩の間に入れる。
　外の庭には面白い絵の壁があった。良いことをすると極楽へ、悪いことをすると地獄へ落ちる教えを子供にも分かるように絵で教えている。
庭の中央には石を積み重ねたマリ塔と呼ばれるものがある。普通は家の外に作るものだがこのうちはラマ教のお坊さんが出ている家なので中庭に作ることが出来る。
　見学の最後にラマ教の展示室を見学。最後にお坊さんによる手相による健康診断を受けた。あなたの生命線は８２歳、肝臓が弱っている。白いお酒は控えめにするようにとの診断。大縫さんも大酒飲みだが私よりまだましだとの診断。本当かな？そして漢方薬の勧めがあった。
　昼食後拉姆さんの友達の家を訪問。おいしいお酒もご馳走になった。お酒も女性用と男性用は違っている。
女性用の方が立派な壷に入っている。しかし、甘いお酒で男性用のほうが白い酒で美味しい。先ほど白いお酒は控えめにと言われたがもう誰も忘れている。

母屋の内部−中央が火の神様

案内説明のモーソ人の娘さん

教えを説いた絵

中庭のマリ塔

最後に最も古い村の小落水村へ向ったが２キロ手前で工事中通行止めとなっていた。今年の６月完成と強く言われているので突貫工事の模様。仕方なくホテルに戻り自由行動となった。スケッチブックを持って濾沽湖湖畔へスケッチに出かけた。19：00 夕食。翌日が早いのでゆっくりと寝ることとした。

拉姆さんの友達の家を訪問

【昆明から濾沽湖モーソ族の旅へ７日目】

６：30 モーニングコール　７：00 朝食　７：30 出発と今日はひたすら元来た道を引き返す。途中で濾沽湖を見渡す展望台に寄る。濾沽湖は見えるが山は雲がかかっていた。11：00 拧浪県まで戻り早めの昼食。13：00 玉竜雪山を望む 3100m地点を通過。14：10 金砂江を渡る。1600m 早朝出発のお陰で 15:40 麗江に到着。耳野さんは始めての麗江ということで麗江古城を駆け足で見学。また、早目の夕食を取って 17:05 麗江古城を出発、麗江空港へ。17:55 着拉姆さんと何さんに 200 元づつお礼を渡して別れる。19:05 麗江発、20:00 昆明に戻ってきた。

麗江古城で記念写真

20:30 茶花賓館着。胡さんと菊ちゃんが来ていた。胡さんはたぶろう展の出品作品を持参。菊ちゃんは鈴木先生松本先生、原田さんへのことづけ品を持参された。

全日本中国旅行の佐々木さんからも連絡が入っており伍さんへ変更後のＥチケットと手続き方法、北京のホテル等メールを送ったとのこと。ただし伍さんの PC の印刷機が不調で印刷出来ないとの連絡。ホテルに FAX も送ったとの事で期待することにした。みんなで 23:00 まで飲んで風呂に入り 23:30 に寝る。

【昆明８日目】

6:30 モーニングコール　チェックアウトを済ませてから 7:00 朝食。佐々木さんからの FAX を受け取って 7:40 ホテル出発、昆明空港へ。伍さんとは会議との事で茶花賓館で別れる。
9:50 予定通り昆明発、12:50 北京に到着。CA の手配のホテルへ入る。みんなでビールを飲んでいると日本語教室「かわせみ」で勉強の譚さんが耳野さんを訪ねてホテルへ来られる。譚さんも誘ってホテルの食堂で最後の夕食。

譚さんとホテルで談笑

【昆明９日目】

4:15 モーニングコールとずいぶん早い。5:00 ホテル出発。あちこちと 30 分以上ホテルをまわって乗客を拾い空港に到着。搭乗手続きをして 6:00 に朝食にありつくことが出来ほっとする。温かいコーヒーとサンドイッチを食べながら出境手続きの書類等を準備する。空港内で最後のお土産を買おうと喫茶店を出る。振り返ると大縫さんが行方不明に気付く。三田さんがまた外へ出て探す。あたふたと駆けてくる大縫さんを発見。大縫さんの告白ではコーヒーとサンドイッチの残骸と一緒にパスホートと航空券をゴミ箱へ捨ててしまったとの事。あわてて喫茶店まで拾いに戻ったらしい。幸い見つかってほっとしたと言う。人騒がせな顛末である。それでも無事 8:30 羽田へ向けて帰路に着く。

最後の夕食

12:45 予定通り羽田着。荷物がなかなか出てこなくて難航。羽田では佐々木さんが迎えに来ていた。保険料の追加を支払って 14:15 発のバスで大船、藤沢へ。相変わらずハプニングの多い昆明交流旅行が終わった。ご苦労様でした。**完　（編集　春名康夫）**